3 「ウェブ炎上」・匿名・プライバシー
——コンピュータネットワークでの生活——

「炎上」というコンピュータネットワークでよく使われる言葉がある．ブログや掲示板などでコメントの書き込みが殺到し，誹謗中傷やプライバシー暴露などが行われるトラブルである．個人情報や画像の流出によって一般市民が突然ネット利用者たちの注目を浴びてしまうこともある．こうした事件はなぜ起こるのか，私たちはネットでどう生活すればよいのか．

はじめに

われわれは電子メールやウェブ（World Wide Web，WWW）に代表される技術によって，ほとんどコストをかけずに意見や大量の情報を交換し，自分の生活や意見を世界中に発信できるようになった．しかしこれらの情報技術（IT）は同時に，さまざまな新しい社会的な問題を引きおこしている．また，コンピュータネットワーク（以下「ネット」と表記する）では，ポルノや薬物，自殺手段など「有害」と呼ばれる情報さえ，簡単にほぼ**匿名**で流通させることができる．他人に関する悪意ある情報や意見を流すこともできれば，意図せず他人の**プライバシー**を暴露してしまうこともありうる．他にもさまざまな仕方で情報技術によってわれわれのプライバシーは危険にさらされている．そこで，ここではネットでの匿名性とプライバシーに関する問題を概観することにしよう．

（1）インターネットの特徴

この本の読者のほとんどはなんらかの形でネットを使用しているだろうから，詳しい紹介は必要ないだろう．ネットによるコミュニケーションの主要な特徴は，それが（1）**グローバルな多対多の双方向通信**であり，（2）**匿名性**が高く個人の特定が難しいこと，そして（3）**コピー**，保存，そして検索が簡単なことである．

従来からのテレビや新聞雑誌といったマスメディアは，1人（1社）の情報発信を多数が受信するという形であり，情報の流れは基本的に発信者から受信

者への単方向である．また電話は2人で双方向のコミュニケーションを行うことができるが，基本的に一対一の通信である．これら旧来のメディアに対し，ネットを使った通信では，誰もが発信者でもあり受信者でもある．文章や写真，動画などを閲覧するだけでなく，メールで一対一のコミュニケーションを行うこともできれば，**ブログ**（Blog）や掲示板への投稿といった手段で誰もが発信者になることができる．さらに世界中どこであろうとも，ネットにつながっていれば同じ程度の料金で通信でき，地域や国境は他のメディアほど重要ではないという意味で**グローバル**である．

またネット上では匿名での活動が容易であり，その情報を発信しているのがどこの誰であるかをはっきりさせることなく活動が可能である．多くのウェブ掲示板では匿名や筆名を用いたコミュニケーションが行われており，記事を投稿をした人物がどこの誰であるのか他の利用者にはわからないことが多い．ブログなどで自分の意見や日常生活を公開している人々の多くも筆名を使っており素性が不明の場合が多い．

さらに，ネット上の情報はすべてデジタル化されており，そのため情報の質を劣化させることなくまったく同じままでコピーすることが可能である．従来のカセットテープやビデオテープ，コピー機などによる複製では何度もコピーを繰り返せば質が劣化することは避けられなかったが，画像，音声，動画などもいったんデジタル化されてしまえば，それを何度複製しようともまったく質が低下することはない．そうした情報がネット上に公開されればGoogle社やYahoo!社を代表とする**検索エンジン**によってさらに収集されコピーされ，簡単な操作によって検索され再利用される．

これらの特徴がこれまでになかったさまざまな社会的問題を生じさせている．まず身近な事件から見てみよう．

（2）「ウェブ炎上」

ネット利用者の間で人間関係のトラブルが多く発生することは，コンピュータ通信が一般的になった1980年代から注目され，「フレーム」（炎）や「フレーミング」と呼ばれていた．ただし当時のネットの利用者はまだ比較的少数で，また各通信会社ごとに区分けされていたために問題が社会的な規模にまで

広がることは多くはなかった．しかし2000年前後にネットの利用者が爆発的に増大したことでこうした騒動の規模は格段に大きくなった．多くの人に読まれることを予想しなかった記事が問題にされ，無名の一般市民が突然注目を浴び，その私生活が暴露され非難され嘲笑されるようになったのもネット利用が拡大したことが一因だろう．

たとえば，ウェブ掲示板は匿名での活動が容易であるために，頻繁に他の人々や企業等の名誉を毀損するような投稿が行われる．

事例1　2001年，最大規模のウェブ掲示板である「**2ちゃんねる**」[1]上で実在の動物病院の評判を下げる悪意ある投稿があいつぎ，管理者が投稿の削除を行わなかったために病院が裁判に訴える事件が起きた[2]．

この事件のあとにも犯罪を犯した少年の実名を公表したり，特定の個人の氏名や住所を公開した上で，プライバシーを暴露したり，悪意ある風評を流すといった行動をする者はあとをたたない．

日記などをネットに書き込むブログサービスが一般化した2003年ごろからは，「**炎上**」や「祭り」という言葉をネット上で目にするようになった．ブログが「炎上」するとは，なんらかの人目を惹く記事を掲載したブログに，多くの批判的なコメントが寄せられ，そのことが掲示板で話題になり，さらに多くのコメントが寄せられるといった状況を指す．「祭り」も同様になんらかの記事や情報に多くのネット利用者が注目し，一時に多数の書き込みが行われる事態を指す．有名人や芸能人の記事が話題にされることが多いが，平凡な市民が，その自覚なしに突然人々の注目を浴びてしまうこともある．

事例2　2003年，居酒屋で自分の子どもが騒いだことについて店員が注意したことに激怒し，夫婦で店員に土下座させ謝罪させたという一般主婦の日記記事が多くの非難にさらされた．ブログその他からこの夫婦の過去のさまざまな行動が暴かれ，夫婦を非難する多数の書き込みがなされ，ブログは閉鎖された．

事例3　2008年，大学教員のブログが光市の母子殺害事件について一般人の見解に反する見解を掲載したとされ，ブログのコメントや掲示板で非難された．一部の人々は大学当局に抗議電話を行い，結果として教員は大学から処分されるという事態となった．

事例4　女性の私的なヌード写真がネットに流出し好奇の目にさらされ実名や勤務先が暴かれた．いまでも画像が一般に公開され続けている．[3]

こうした現象では，先に挙げたネットの3つの特徴が大きなポイントになっていると考えられる．第1に，ウェブが誰でも発言し読むことができるということは，ネット上では意見や価値観や感じ方が大きく違った人々と出会うということである．価値観が多様化した現代社会では，ある人々にとっては当然に思える意見が別の人々には非常に不快なものと感じられることは多い．つきあう人々の範囲がほぼ定まっている日常生活ではそうした人々どうしが出会う機会は比較的少ないのだが，ネットでは日常生活では出会わないはずの人々が意見を戦わせることになる．またそこでは実社会での社会的地位や権威はさほど重要ではない．まずこれらのことがトラブルの原因と考えられる．

第2に，そうした騒動には非常に多数の匿名の参加者がかかわっている．ウェブ掲示板やブログ利用以前では，利用者は実名や素性を明かさずには利用できないことが通常だった．しかしウェブ時代では多くの利用者が匿名で読み書きの活動をすることを選択している．[4] ネットの匿名性には数多くの長所がある．匿名であることによってわれわれは自分の正直な体験や意見を告白することができ，また，社会的な地位や職業，性別，その他のステレオタイプにとらわれることなく自由な議論を行うことができる．「ネットは自由な社会だ」と主張されることがあるのは，1つには，ネットでの匿名・筆名での活動がわれわれを既存の社会的地位の束縛から解放してくれるからである．

しかし一方，匿名の個人の集団が暴徒化しやすいことは古くからよく知られている．群集によるリンチ，デモをきっかけにした暴力や略奪行為，サッカーファンのスタジアムでの攻撃行動など，多くの不幸な出来事が匿名の集団によって引き起こされる．従来の社会心理学の研究では，群集のなかでは個人が匿名の人物となる脱個人化（deindividuation）がこうした反社会的な行動の原因の大きな要因であると指摘されている．匿名性によって責任が分散している状況では，個人は，(1)自分の行動の監視がおろそかになる，(2)自分の行動が社会的に是認されるかいなかについての関心が低下する，(3)衝動的に行動しやすくなる，(4)理性的に行動する能力が低下する，といった状態におかれる．[5] こうした暴力的で攻撃的な状況が，ネット上では非常に引き起こされやすく

なっている可能性がある．

第3に，いったんインターネットに公開された情報は簡単にコピーすることができるために，もとの記事を削除したとしても，それが他の場所に保存されていることが多い．いったん撮影され公開されたヌード画像等は，いったん削除されても誰かが再び公開することが繰り返され，もはやネットから消えることはない．また注目されていなかった過去の情報も検索エンジンその他の場所に保存されているため，いったんなんらかの情報をネットで公開してしまえば，もうその情報は消えることはないと考えてもよいほどである．そうした情報の検索は非常に容易であるため，興味をもった利用者が複数の情報源（ブログ，SNS[6]，各種の記録）から情報をつなぎあわせて，ある個人の全体的なプロフィールを調査することは難しくない．こうしてすでに日々蓄積されている情報と検索技術によって，「公人化」された一般市民が攻撃され嘲笑される事件があとをたたないのである．

（3）ITとプライバシーの危機

ところで，上で指摘した匿名性は，実は，一般の利用者から見た場合の「見かけ」だけのものにすぎない．実際にはコンピュータやネットの利用は日々記録されている．いくつか例を見てみよう．

（1）企業や大学のような組織では，ほとんどすべてのコンピュータの使用状況が記録に残されている．管理者は原理的にはどのコンピュータにどのユーザーがログインしたか，そのユーザーがウェブでどんなページを見たかを調査することができる．

（2）大学や職場ではそのメンバーほとんどがメールアドレスを持ち，内外との連絡に用いている．多くの企業ではネットの管理を内部で行っているため，ネットワーク管理者や雇主は，従業員が誰とどのような内容のメールを交換しているか，どのようなウェブを閲覧しているか，さらには，簡単な仕掛で，1日あたりの作成文書数やキーボードのタイプ数や内容まで，さまざまデータを本人に知られることなくチェックできるようになっている．ネットは，以前にもまして従業員の監視を可能にして

いる．

(3)ネットにおける電子メールは暗号化されていないかぎり，配送経路の多くの場所で盗み読みが可能である．通常，コンピュータの管理者は，技術的には他人のメールも簡単に読むことができるし，また，ネットはさまざまな組織とコンピュータの集合体であるため，暗号ソフトウェアを利用しなければ，その配送上での機密性はほとんど保証されていないと言ってよいだろう．

(4)ネット上でわれわれがウェブを読む際には，「クッキー」がサーバーからブラウザに送られていることがある．「クッキー」はウェブサーバーがクライアントに送信してくるデータで，そこには，入力した名前やパスワード，閲覧したページ，閲覧した日付等がおさめられている．これにより，一度そのウェブページから離れても，再びアクセスした際にサーバがクライアントに保管しておいたクッキーを読み取ることで，個人を特定し，再び以前の利用続きなどを行うことを実現している．一度設定したウェブページの閲覧方法の保管や，掲示板に登録した名前や電子メールアドレスの保存，オンラインショッピングのページで，過去に購入した商品の情報などを記録しておくことができる．原理的に，このクッキーを用いて，サーバー側で，インターネット上のどのマシンがそのサーバーにアクセスしたのか，そのマシンは他にどのようなウェブサーバーを見ているのか，さらには，サーバーに入力した文字列（メールアドレスやパスワード，名前等）さえ保存し，それを利用することができる．

(5)無料メールアドレスサービスでは，自分の氏名などの情報だけでなく，友人などの相手のメールアドレスや氏名なども要求されることがある．このようにして，厖大な個人情報がネット企業の手に渡っているわけである．企業によるウェブでのさまざまなサービスでは，多くの場合実名や住所，電話番号，生年月日等の入力が要求される．デパートやスーパーマーケットその他での買物をクレジットカードや電子カードなどによって行えば，企業がこれらの購入情報を収集することもたやすい．そうした情報の流通には現在では法的な規制がかけられているが，意図せ

ぬ情報の流出のニュースは頻繁にメディアを賑わせている．

もし，なんらかの組織が，(4)や(5)で入手したデータを，名前や生年月日，住所などを鍵にしてつなぎあわせれば，ある人物が，どこに住み，誰と交際し，どんな車に乗り，どんな経済状態で，今月どのような食生活を送っているかまで，非常に詳しい輪郭を簡単に描くことができるようになる．これらの個人情報の利用は，ビジネスの上では有益であろう．市場調査会社や金融機関や政府などがわれわれの情報を収集分析し，その情報がわれわれがこれらの機関によってどう扱われるかを決定することになる．雇用状況や年収といった情報によって，われわれの「信用」が決定され，われわれが，たとえば金融機関から融資を得られるかどうかが決定される．われわれはいまだに，誰が自分についての情報を入手し使うのかを決定することはできないのである．

さらに，われわれは通常自分のもっているデータが「どこ」にあり，誰がそれを調べることができるかを十分意識していない．たとえば次のような事例があげられるだろう．

(6)自分のコンピュータの特定のハードディスクに保存したつもりのファイルが，それが破損したときのために保存する「バックアップ」のために別のディスクやCD-ROMにコピーされたままになり忘れられてしまうことがある．企業や大学などの大規模サーバーに保存したデータも，通常，故障に備えてバックアップされ複製が作られている．コンピュータを使うたびにわれわれは情報をまき散らしている．

(8)最近人気のウェブアルバムサービス（Google社のPisca Web Albumなど）や地図サービスなどのデータが，（おそらく本人の意図に反して）誰もが見られる状態になっていることもよく見うけられる．

(9)無料でアドレスが獲得できるフリーメールサービスでは，ネット上にアドレス帳を保存している．このデータを使って，自分の知人があるサービスを利用していることを発見できることがある．たとえば最近人気があるSNSのtwitterや動画サービスのYouTubeでは，Googleその他のメールサービスのアドレス帳を利用して，サービスを利用している知り合いを（本人の意に反して？）発見し，どのような活動を行っているかを

観察することができる.

まだある. われわれが自分の行動をブログやSNSに書き込むことによって, たいていの場合, 自分だけではなく, 自分の周囲の人々の行動や言動を記録することになる.

(10)たとえばあなたがブログに書きこんだ「今日はA君と映画に行った」という記載は, A君の意に反してA君の行動を他の人々に知らせることになる(たとえばA君は会社をずる休みしていたかもしれない). またB君がブログに記録したC君のコンパでの言動をガールフレンドや就職先の企業の人が読むことになるかもしれない.

このようにITによる情報革命は, われわれが意識しないところでわれわれのプライバシーを脅かしているのである.

(4)「プライバシー」の重要性

このような「プライバシーの危険」については, 過剰な危惧が抱かれているのではないかと見る人々もいる. ネット技術者・管理者の「倫理綱領」はすでに整備されているし, また, 国内では2005年より各種の個人情報の保護に関する法律が定められ, 制度の整備が進められている.「プライバシー」に過剰に敏感な人々は, なにか後ろ暗い秘密をもっているのではないだろうか(たとえば会社をずる休みして映画に行ったA君のように).「表裏のない人」という誉め言葉があるように, 道徳的に正しく, うしろめたいことのない生活をしている人々にとっては「プライバシー」はそれほど重要なものではないのではないだろうか. むしろ, そのような他の人に隠された部分がなくなることが社会生活の管理や安全のために必要なのではないだろうか. 反社会的な行動や卑劣な人々, 人を騙す言動などが暴かれるのはよいことなのではないだろうか. われわれはもっと自分のふるまいや考え方を人々に知らせ, またお互いに知りあった方がより明るく透明な社会になるのではないだろうか. なぜわれわれは自分の行動を他人に隠したいと思うのだろうか. なぜ他人に知られない私的(プライベート)な領域を必要とするのだろうか. こうした疑問に答えるには哲学的な考察が必要と

なる．

まず，一般に使われる「プライバシー」という言葉は，非常に広く，また曖昧な概念であることに注意しよう．実際，われわれは「自分の部屋に勝手に入られたくない」「手紙や日記を読まれたくない」「過去のことを詮策されたくない」「いま何をしているか他人に知られたくない」「裸でいるところを見られたくない」「一人になりたい」など，さまざまな場合に，プライバシーという言葉を思い浮かべる．これらの状況の多様性は，プライバシーという概念の広さと多様性を示しており，この言葉の厳密な定義は難しい．しかしまず，「プライバシー」とされる領域を分析してみよう．

プライバシーと呼ばれる領域には，まず第1に，内面的な思考や感情がある．我々は内心のことがらを他人に打ち明けたくないことがあり，それを詮索する人々を迷惑であると思うことがある．第2に，恋愛関係や友人関係は基本的にプライベートな事柄であり，当人たちが他に知られることを望んでいなければ，それを赤の他人が詮索したり，みだりにおおやけにすることは望ましくないと思われている．第3に，健康状態や経済状態などの個人情報は，医者や債権者など，それに関わることが正当とみなされる人々以外には知られるべきでないと考えられている．仮に，それを誰かに知られたとしても実害はないと思われる場合でも，私は誰がそれを知るかを自分でコントロールしたいと思うだろう．また第4に，われわれは自分の部屋や自分の机など，1人になる私的な物理的空間が必要である．第5に，われわれは誰かに**監視**されていることを好まない．もちろん，ほかにもわれわれの「プライバシー」の概念に関わる状況はさまざまあるだろうし，何をパブリックに，何をプライベートにしようとするかは文化や教育や環境によって変わるかもしれないが，おおやけにされないプライベートで個人的な部分がわれわれの生活のなかで非常に重要な部分であるという直感は広く共有されている．

さて，このような私的な領域・個人的な情報はなぜわれわれにとって重要なのだろうか？　簡単に考察してみよう．

第1に，プライバシーは安全のために重要である．たとえば一人暮らしの女性の住所氏名等が犯罪者たちの手に渡れば，格好の標的になりうる．ブログやSNSから，一人暮らしかどうか，住居先や生活の時間帯，バイト先，交友関

係などを推測することはやさしい．プライバシーが持つこのような直接の利害はわかりやすい．そうした個人情報が不特定多数の手に渡ることは危険な場合がある．

第2に，プライバシーは生活上の戦略や他人との競争のために重要である．われわれの生活には多くの社会的葛藤や競争が含まれている．もし他人に自分の考えや策略を知られてしまえば，社会での競争において不利になることはまちがいない．また，医療情報が知られることによって，生活が脅かされることがある．性病やアルコール依存症の病歴が知られれば，結婚生活が破綻したり，職を失う結果になることが考えられる．

第3に，さまざまな偏見が存在する現実の社会では，そのような偏見にさらされないために他人に知られたくないことも多い．出身地や性的な指向が本来就職には無関係であるはずだとしても，現実にはそのために就職において差別されてしまうかもしれない．

また，第4に，われわれは，他人から「**監視**されている」ことを意識することによって行動を変えるものである．われわれは一人で部屋にいるときに平気で行うようなことも，誰かが見ていればできないことが多い．もし誰かが自分を見ているということを意識してしまうと，われわれは自由に自分の行動を計画したり，実行したりすることができなくなることがしばしばである．たとえばメールが誰か他の人に覗かれていることを意識すれば，われわれは本当に言いたいことを相手に伝えることができなくなるだろう．

しかしもっと深い理由がありそうである．第5に，プライバシーには人間関係において果たす重要な役割がある．少し詳しく見てみよう．社会学者チャールズ・フリードや哲学者ジェームズ・レイチェルズは，プライバシーは親密な人間関係を保つ上で重要であるとする．フリードによれば，われわれのよき生活のためには恋愛関係や友人関係などの，親密さと信頼によって結びついた特別な関係が必要である．そのためには，内密の事柄を親密な関係だけで共有するためのプライバシーが必要である．たんなる知り合いと親友との違いはなんだろうか？　フリードは次のように指摘している．

友人どうし，恋人どうしであるために，ひとはお互い深く親密にならなけ

ればならない．親密さとは，他の人々とは共有していない自分たちの行動や考えや感情についての情報を特定の人のあいだで分かちあうことである．……愛や友情は，さまざまな他の種の贈り物———たとえば物品や奉仕といった贈り物———によって表現することもできるかもしれない．しかしプライベートな情報を分かちあうことがなければ，こうした贈り物だけでは愛や友情を成り立たせることはできない．物品については気前よく分かちあってくれるが，自分自身を分かちあわない人は友人とはいえないし，自分にかかわるすべてを誰とでも分かちあう人を友人だとはとても考えることができない———恋愛のためにプライバシーが必要なことはわかりやすい一例だろう．(7)

つまり，フリードによれば，われわれは特別な関係を維持するために特別な人にしか公開しないような情報の領域をもつことが必要なのである．

レイチェルズはこれに加えて次のように指摘する．

ある他者に対して私たちが持つ異なる社会関係に応じてふるまい方を変えるのは単なる偶然ではない．むしろ，異なるふるまいが，異なる関係を規定するものであり，したがって，異なる振る舞い方は，異なる関係を異なったものにする重要な一部なのである．たとえば，友人関係には，感情的な結びつきや特別な義務が含まれる．しかしまた，友人といっしょにいることを歓迎し，秘密を打ちあけ，自分自身について話し，他の人々には話したり見せたりしない自分の一側面を見せることもまた，友人を持つということの重要な一部である．私がある人を自分の親友だと思っているとしよう．彼が仕事について悩んでいて，仕事でクビになることを恐れていることを知ったとする．しかし，彼は他の何人かにはそのことを相談する一方で，私にはそのことについてさっぱり話してくれなかったとしよう．次に，私は彼が詩を書くこと，それが彼の人生においてとても大事なことだということを知ったとしよう．しかし，彼は他の人たちには自分の詩を読んでもらう一方で，私には読ませてくれない．さらに，彼は私に対してよりも，その他の友人にはよりくだけた態度で接しており，私とつきあうより彼らとつきあうことの方が多いようだということを私は知る．彼のふ

るまい方について，なんらかの特別な説明がなければ，私は，自分は思っていたほど彼の親友ではないと結論しなければならないことになるだろう．

同じようなことが，他の種類の人間関係———たとえば社長と従業員，聖職者と会衆，医者と患者，夫と妻，親と子などについても言える．それぞれの場合に，人々の人間関係には，おたがいにどのように振る舞うのが適切か，さらには，おたがいについてどのような知識をどの程度持つのが適切かということが含まれている．(8)

レイチェルズは社会での多様な人間関係を維持する枠組としてプライバシーが重要だと考えるのである．われわれは，親友，上司，部下，恋人などのさまざまな人間関係を維持するために情報の使いわけが必要である．われわれは人間関係に応じて態度を変える．それは生活の上で必要なことであるが，もし皆が私について同じことを知っているならば，このような人間関係の多様性は維持できない．

たとえば大学生がmixiのようなSNSに参加すれば，そこに反映されている人間関係は中学の友人，高校の友人，大学の友人，バイト仲間，単なる知り合い，恋人，教師，親戚，ネットだけの知り合いとさまざまになるだろう．われわれは人間関係をコントロールするためにグループごとに「顔」や「キャラ」を使いわけているのだが，それが不可能になる時代が来ているのかもしれない．親と子，上司と部下，教師と生徒などが，お互いの生活上の不満や悩みや恋愛関係について知ることはひょっとするとそれほど望ましいことではないかもしれないし，一方で，そうした新しいコミュニケーションは新しい社会を作りあげるのかもしれない．これらはITと現実社会がこれからどのようにかかわっていくかにかかっている．

まとめ

本節で見て来た以上にネット上にはさまざまな問題と危険が潜んでおり，利用には十分な知識が必要である．しかしネットを利用して人々と交流するのは楽しいことでもあり，また有益な情報も入手できる．より楽しくネットを利用する上でも，その特性と危険を理解しつつ利用してほしい．

注

（1） http://www.2ch.net
（2） 『判例時報』第1810号，p.78.
（3） 『裏モノ　JAPAN』2009年8月号別冊『実録！ブログ炎上』鉄人社．このような情報はネット上に「事件まとめサイト」が作られていることが多い．「ブログ炎上」などのキーワードで検索してみるとよい．
（4） 総務省情報通信政策研究所（2009）．
（5） Eysenck（2000，邦訳p.825）．
（6） Social Network Service．実生活での人間関係をネット上に構成するサービス．国内ではmixi（http://mixi.jp）やGREE（http://gree.jp）が有名である．
（7） Fried（1970，邦訳は江口による）．
（8） Rachels（1975，邦訳は江口による）．

参考文献

総務省情報通信政策研究所（2009）「インターネットと匿名性」，調査報告書，総務省情報通信政策研究所．

Eysenck, Michael（2000）*Psychology: A Student's Handbook*, Psychology Press.（マイケル・W．アイゼンク『アイゼンク教授の心理学ハンドブック』白樫三四郎他監訳，ナカニシヤ出版，2008年）．

Fried, Charles（1970）*An Anatomy of Values: Problems of Personal and Social Choice*, Harvard University Press.

Rachels, James（1975）"Why Privacy is Important." *Philosophy & Public Affairs*, vol. 4.

推薦図書

大谷卓史（2008）『アウト・オブ・コントロール：ネットにおける情報共有・セキュリティ・匿名性』岩波書店．

荻上チキ（2007）『ウェブ炎上：ネット群集の暴走と可能性』筑摩書房．

三浦麻子・森尾博昭・川浦康至編（2009）『インターネット心理学のフロンティア：個人・集団・社会』誠信書房．

アダム・N．ジョインソン（2004）『インターネットにおける行動と心理』三浦麻子・畦地真太郎・田中敦訳，北大路書房．

デボラ・ジョンソン（2002）『コンピュータ倫理学』オーム社．

課題

1．ネット上の各種の事件やトラブルを探してみよう．http://www.google.comのような検索エンジンで「炎上」「ネット事件」などで検索してみるとかなりの情報を入手できる．
2．ネットで自分の知っている人物についてどの程度のことを知ることができるか試してみよう（たとえばゼミの教員についてどんなことを知ることができるだろうか？）あなた自身についてはどうだろうか？

3．推薦図書からプライバシーと匿名性の重要性について考えてみよう．

（江口　聡）